

12.06.03

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

10 DEC 2004

REC'D 01 AUG 2003

WIPO PST

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 6 月 1 2 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 1 7 2 0 0 6
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 2 - 1 7 2 0 0 6]

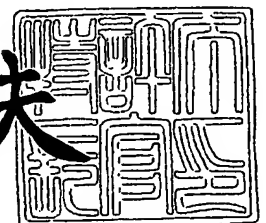
出 願 人 旭化成株式会社
Applicant(s):

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2 0 0 3 年 7 月 1 1 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 ASKX14-418

【提出日】 平成14年 6月12日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G06F 17/60

【発明の名称】 取引支援システムおよび方法

【請求項の数】 5

【発明者】

【住所又は居所】 東京都千代田区有楽町一丁目1番2号 旭化成株式会社
内

【氏名】 金子 修也

【発明者】

【住所又は居所】 宮城県延岡市旭町6丁目4100番地 旭化成株式会社
内

【氏名】 五味 俊一

【特許出願人】

【識別番号】 000000033

【氏名又は名称】 旭化成株式会社

【代理人】

【識別番号】 100077481

【弁理士】

【氏名又は名称】 谷 義一

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013424

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9713025

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 取引支援システムおよび方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 情報を入力する入力手段と、情報を出力する出力手段と、前記入力手段から入力された情報を送信し、前記出力手段で出力すべき情報を受信する通信手段とを有し、製品製造者が使用する第 1 のシステムと、

情報を入力する入力手段と、情報を出力する出力手段と、前記入力手段から入力された情報を送信し、前記出力手段で出力すべき情報を受信する通信手段とを有し、成分製造者が使用する第 2 のシステムと、

製品の組成に係わる組成物情報を蓄積しており、前記第 2 のシステムから送信されてくる検索要求に応じて組成物情報を前記第 2 のシステムの出力手段に提供可能であり、組成物製造者が使用する第 3 のシステムと

を有し、

前記第 1 のシステムの入力手段から製品組成物の主成分に関する主成分情報を入力して該第 1 のシステムおよび前記第 2 のシステムの通信手段を介して前記主成分情報を第 2 のシステムの出力手段に出力し、前記第 2 のシステムの入力手段から製品組成物成分に関する成分情報と検索要求を入力し、該検索要求に応じて、前記成分情報に関する蓄積された組成物情報を前記第 3 のシステムから取得して前記第 2 のシステムの出力手段から出力し、当該出力された蓄積情報に基づいて決定される予想製品物性情報および予想製品生産コストを前記第 2 のシステムの入力手段から入力して、前記第 1 のシステムおよび第 2 のシステムの通信手段を介して転送し、前記第 1 のシステムの出力手段から出力することを特徴とする取引支援システム。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の取引支援システムにおいて、予想製品物性情報および予想製品生産コスト情報を前記第 1 のシステムの出力手段から出力した後、前記第 1 のシステムから入力された試作品の製造依頼を、前記第 1 のシステムおよび第 2 のシステムの通信手段を介して該第 2 のシステムの出力手段から出力し、前記第 2 のシステムの入力手段から試作品の少なくとも物性にかかわる情報を製品の製造にかかわる情報として入力し、当該入力された製造にかかわる

情報を前記第 1 のシステムおよび第 2 のシステムの通信手段を介して前記第 1 のシステムの出力手段から出力することを特徴とする取引支援システム。

【請求項 3】 情報を入出力可能であり、通信機能を有し、製品製造者が使用する第 1 のシステムと、

情報を入出力可能であり、通信機能を有し、成分製造者が使用する第 2 のシステムと、

製品の組成に係わる組成物情報を蓄積しており、前記第 2 のシステムから送信されてくる検索要求に応じて組成物情報を前記第 2 のシステムに提供可能であり、組成物製造者が使用する第 3 のシステムと

の間で実行される取引支援方法であって、

前記第 1 のシステムから製品組成物の主成分に関する主成分情報を入力して該第 1 のシステムおよび前記第 2 のシステムの通信機能を介して前記主成分情報を転送して第 2 のシステムに出力し、前記第 2 のシステムから製品組成物成分に関する成分情報と検索要求を入力し、該検索要求に応じて、前記成分情報に関する蓄積された組成物情報を前記第 3 のシステムから取得して前記第 2 のシステムから出力し、当該出力された蓄積情報に基づいて決定される予想製品物性情報および予想製品生産コストを前記第 2 のシステムから入力して、前記第 1 のシステムおよび第 2 のシステムの通信機能を介して転送し、前記第 1 のシステムから出力することを特徴とする取引支援方法。

【請求項 4】 請求項 3 に記載の取引支援方法において、予想製品物性情報および予想製品生産コスト情報を前記第 1 のシステムから出力した後、前記第 1 のシステムから入力された試作品の製造依頼を、前記第 1 のシステムおよび第 2 のシステムの通信機能を介して該第 2 のシステムから出力し、前記第 2 のシステムから試作品の少なくとも物性にかかわる情報を製品の製造にかかわる情報として入力し、当該入力された製造にかかわる情報を前記第 1 のシステムおよび第 2 のシステムの通信機能を介して前記第 1 のシステムから出力することを特徴とする取引支援方法。

【請求項 5】 情報を入力する入力手段と、情報を出力する出力手段と、前記入力手段から入力された情報を送信し、前記出力手段で出力すべき情報を受信

する通信手段とを有し、製品製造者が使用する第 1 のシステムと、

製品の組成にかかわる組成物情報を蓄積しており、情報を入力する入力手段と、情報を出力する出力手段と、前記入力手段から入力された情報を送信し、前記出力手段で出力すべき情報を受信する通信手段とを有し、成分製造者が使用する第 2 のシステムと

を有し、

前記第 1 のシステムの入力手段から製品組成物の主成分に関する主成分情報を入力して該第 1 のシステムおよび前記第 2 のシステムの通信手段を介して前記主成分情報を第 2 のシステムの出力手段に出力し、前記第 2 のシステムの入力手段から組成物成分に関する成分情報と検索要求を入力し、該検索要求に応じて、前記成分情報に関する蓄積された組成物情報を前記第 2 のシステムから取得して前記第 2 のシステムの出力手段から出力し、当該出力された蓄積情報に基づいて決定される予想製品物性情報および予想製品生産コスト情報を前記第 2 の入力手段から入力して、前記第 1 のシステムおよび第 2 のシステムの通信手段を介して転送し、前記第 1 のシステムの出力手段から出力することを特徴とする取引支援システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、製品製造者と成分製造者間の製品情報及び成分取引を支援する取引支援システムおよび方法、例えば、健康食品、その他食品や化粧品等、特に医薬品のように一つの主要薬剤とその他の複数成分からなる組成物製品製造者と、組成物を構成する成分の製造者との間の取引を支援する取引支援システムおよび方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、組成物製品製造者（以下、製品製造者、たとえば、製薬会社）は、該組成物の主成分（たとえば医薬の薬効成分）の製造をおもに担当し、該主成分とマッチした他の組成物成分（たとえば、上記薬効成分にマッチした錠剤形成用賦形

剤)の製造・供給を、組成物成分製造者(以下、成分製造者)に依頼している。

【0003】

この場合、所定の薬効成分に最適な組成物成分がはじめからわかっていることは少なく、製品製造者は、候補とおもわれる、複数の組成物成分の組み合わせの中から、サンプル製品の製造およびその評価を通じて、最適な組成物成分を選定していた。しかしながら、このような、最適な主成分とその他の組成物成分の組み合わせについては、多種多様な組成物成分およびそれらを用いた組成物製造法の知識の蓄積が必要であり、製品製造者にとってかならずしも容易なものではなかった。

【0004】

一例として図1を参照して、受託生産のケースにおける、製品製造者、成分製造者および受託組成物製造者(以下、組成物製造者)の間の情報交換の処理内容を具体的に説明する。

①製品製造者は新しい医薬品を製造しようとする場合、その製造に必要な組成物成分a、b、c...についての物性等の情報を成分製造者に照会する。

②成分製造者は照会のあった組成物成分に関する情報を調べて、製品製造者に提示(回答)する。

③製品製造者はサンプルを調製し、評価を行う。よりよい評価が得られない場合には①～③の処理を繰り返す。

④最終的に決定された成分を購入希望組成物成分として成分製造者に指示する。

⑤成分製造者は指示された成分を製品製造者に対して販売する。

⑥製品製造者は購入した成分を組成物製造者に引渡すと共に、処方を開示し、製品の生産を委託する。

⑦組成物製造者は受託生産を行う。

⑧製造された製品が製品製造者に供給される。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

製品製造者にとって、製品製造にいたるまでには、成分製造者および組成物製

造者と情報交換を繰り返し行わなければならない、製品製造のための情報交換に多大な労力を必要とするという解決すべき課題が従来にはあった。

【0006】

そこで、本発明の目的は、製品製造者が上記成分製造者もしくは組成物製造者と協同して主成分に最適な他の組成物成分およびそれらの組み合わせを見出すことを支援し、もって製品製造者と関連する製造者間の取引の迅速化を実現することが可能な取引支援システムおよび方法を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】

このような目的を達成するために、請求項1の発明は、情報を入力する入力手段と、情報を入力する出力手段と、前記入力手段から入力された情報を送信し、前記出力手段で出力すべき情報を受信する通信手段とを有し、製品製造者が使用する第1のシステムと、情報を入力する入力手段と、情報を入力する出力手段と、前記入力手段から入力された情報を送信し、前記出力手段で出力すべき情報を受信する通信手段とを有し、成分製造者が使用する第2のシステムと、製品の組成に係わる組成物情報を蓄積しており、前記第2のシステムから送信されてくる検索要求に応じて組成物情報を前記第2のシステムの出力手段に提供可能であり、組成物製造者が使用する第3のシステムとを有し、前記第1のシステムの入力手段から製品組成物の主成分に関する主成分情報を入力して該第1のシステムおよび前記第2のシステムの通信手段を介して前記主成分情報を第2のシステムの出力手段に出力し、前記第2のシステムの入力手段から製品組成物成分に関する成分情報と検索要求を入力し、該検索要求に応じて、前記成分情報に関する蓄積された組成物情報を前記第3のシステムから取得して前記第2のシステムの出力手段から出力し、当該出力された蓄積情報に基づいて決定される予想製品物性情報および予想製品生産コストを前記第2のシステムの入力手段から入力して、前記第1のシステムおよび第2のシステムの通信手段を介して転送し、前記第1のシステムの出力手段から出力することを特徴とする。

【0008】

請求項2の発明は、請求項1に記載の取引支援システムにおいて、予想製品物

性情報および予想製品生産コスト情報を前記第1のシステムの出力手段から出力した後、前記第1のシステムから入力された試作品の製造依頼を、前記第1のシステムおよび第2のシステムの通信手段を介して該第2のシステムの出力手段から出力し、前記第2のシステムの入力手段から試作品の少なくとも物性にかかわる情報を製品の製造にかかわる情報として入力し、当該入力された製造にかかわる情報を前記第1のシステムおよび第2のシステムの通信手段を介して前記第1のシステムの出力手段から出力することを特徴とする。

【0009】

請求項3の発明は、情報を入出力可能であり、通信機能を有し、製品製造者が使用する第1のシステムと、情報を入出力可能であり、通信機能を有し、成分製造者が使用する第2のシステムと、製品の組成に係わる組成物情報を蓄積しており、前記第2のシステムから送信されてくる検索要求に応じて組成物情報を前記第2のシステムに提供可能であり、組成物製造者が使用する第3のシステムとの間で実行される取引支援方法であって、前記第1のシステムから製品組成物の主成分に関する主成分情報を入力して該第1のシステムおよび前記第2のシステムの通信機能を介して前記主成分情報を転送して第2のシステムに出力し、前記第2のシステムから製品組成物成分に関する成分情報と検索要求を入力し、該検索要求に応じて、前記成分情報に関する蓄積された組成物情報を前記第3のシステムから取得して前記第2のシステムから出力し、当該出力された蓄積情報に基づいて決定される予想製品物性情報および予想製品生産コストを前記第2のシステムから入力して、前記第1のシステムおよび第2のシステムの通信機能を介して転送し、前記第1のシステムから出力することを特徴とする。

【0010】

請求項4の発明は、請求項3に記載の取引支援方法において、予想製品物性情報および予想製品生産コスト情報を前記第1のシステムから出力した後、前記第1のシステムから入力された試作品の製造依頼を、前記第1のシステムおよび第2のシステムの通信機能を介して該第2のシステムから出力し、前記第2のシステムから試作品の少なくとも物性にかかわる情報を製品の製造にかかわる情報として入力し、当該入力された製造にかかわる情報を前記第1のシステムおよび第

2のシステムの通信機能を介して前記第1のシステムから出力することを特徴とする。

【0011】

請求項5の発明は、情報を入力する入力手段と、情報を出力する出力手段と、前記入力手段から入力された情報を送信し、前記出力手段で出力すべき情報を受信する通信手段とを有し、製品製造者が使用する第1のシステムと、製品の組成にかかわる組成物情報を蓄積しており、情報を入力する入力手段と、情報を出力する出力手段と、前記入力手段から入力された情報を送信し、前記出力手段で出力すべき情報を受信する通信手段とを有し、成分製造者が使用する第2のシステムとを有し、前記第1のシステムの入力手段から製品組成物の主成分に関する主成分情報を入力して該第1のシステムおよび前記第2のシステムの通信手段を介して前記主成分情報を第2のシステムの出力手段に出力し、前記第2のシステムの入力手段から組成物成分に関する成分情報と検索要求を入力し、該検索要求に応じて、前記成分情報に関する蓄積された組成物情報を前記第2のシステムから取得して前記第2のシステムの出力手段から出力し、当該出力された蓄積情報に基づいて決定される予想製品物性情報および予想製品生産コスト情報を前記第2の入力手段から入力して、前記第1のシステムおよび第2のシステムの通信手段を介して転送し、前記第1のシステムの出力手段から出力することを特徴とする。

【0012】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の実施形態を詳細に説明する。

【0013】

図2に後述の実施形態に適用可能な取引支援システム全体の構成を示す。図2において、100は製品製造者が使用するコンピュータシステム（以下、単にシステムと略記する）であり、通信サーバ101とこの通信サーバ101にLAN接続された1以上のクライアント102を有する。通信サーバ101はクライアント102から送られる情報を成分製造者のシステム200に転送する。クライアント102はパーソナルコンピュータ等を使用することができ、電子メール用

ソフト、ホームページ（HTML文書等）を閲覧するためのブラウザを搭載している。クライアント102は後述の他のシステムのクライアントに送信する情報を入力するとともに、他のシステムから受けた取った情報を表示する。

【0014】

200は成分製造者が使用するシステムであり、通信サーバ201と、通信サーバ201にLAN接続された複数のクライアント202を有する。通信サーバ201とクライアント202の機能は上述の通信サーバ101とクライアント102と同様とすることができる。ただし、通信サーバ201には、組成物成分の種類に応じた物性など製品製造者に提供すべき情報（物性情報と総称する）が内部の記憶装置、たとえば、ハードディスク記憶装置に記憶されている。

【0015】

また、通信サーバ201は、組成物成分の種類、量等の情報に基づいて、製造価格および製造条件を算出するための見積もり用プログラムを搭載している。さらに、組成物製造者の通信サーバ（後述）に蓄積されている蓄積情報を読み出すためのプログラムを通信サーバ20は搭載している。

【0016】

見積もり用プログラムは、量をパラメータとする製造コストの計算式を組成物成分の種類ごとに予め定めておき、この計算式により製造コストを計算するようにプログラムを組めばよい。また、リモートで蓄積情報（いわゆるデータベースのデータ）を読み出すプログラムは市販されているので、市販のものを使用すればよい。

【0017】

300は組成物製造者が使用するシステムであり、通信サーバ301と、通信サーバ301にLAN接続された複数のクライアント302を有する。通信サーバ301とクライアント302の機能は上述の通信サーバ101とクライアント102と同様とすることができる。ただし、通信サーバ300内の記憶装置には、成分製造者のシステム200からの蓄積情報の照会いわゆるクエリ（検索要求）に応じて、蓄積情報を提供する周知のデータベース管理用プログラムが搭載されている。蓄積情報は複数の組成物成分を組み合わせた組成物（製品全体をも含

むことも可能)の物性およびその製造条件に関する情報(上記2つの情報を組成物情報と総称することがある)である。

【0018】

400は上述のシステム100～300を接続可能とする通信ネットワークであり、たとえば、インターネットと呼ばれる専用電話回線や、無線、有線を問わず、周知の通信ネットワークを使用することができる。

【0019】

(第1の実施形態)

第1の実施形態での処理手順を図3を参照しながら説明する。

(処理1)

製品製造者の製品製造担当者は、クライアント102から依頼書、具体的には製造する主要成分X1を含む製品Xの希望物性を達成するための製品組成及びその製造方法の提供を依頼する依頼書(図3の①)を入力して、通信サーバ101を介して成分製造者のシステム200に送信する。製品製造者からの依頼事項としては、主要成分X1の特定、及び製品の希望物性項目、その希望値以外に、製品形態、希望製品コスト、製造条件の制約、使用成分の制約等がある。

【0020】

なお、主要成分X1が一般に入手困難な場合は、製品製造者から成分製造者に主要成分X1が提供されることが必要である。また場合によっては、主要成分X1と同様な物性を示す類似品が提供されることもある。

【0021】

(処理2)

成分製造者の営業担当者は通信サーバ201を介してクライアント202で依頼書を受領する。そして、営業担当者はクライアント202を使用して依頼書に記載された主成分に関連する組成物成分についての検索要求を入力し(図3の②)、組成物製造者のシステム300の通信サーバ301に蓄積されている主成分X1あるいはそれと物性の近い成分からなる各種製品組成及びそれらが達成する物性および製造条件に関する情報(組成物情報)を取得する(図3の③)。さらに成分製造者が製造する組成物成分X2を含有する製品組成及びその製造条件を

も通信サーバ301内の蓄積情報から取得する。また、製品の物性等の情報を自己の通信サーバ201あるいは組成物製造者のシステム300の通信サーバ301内の蓄積情報から取得する。このようにして予想製品の物性が決定される。次に営業担当者はクライアント202から見積もりのための情報（組成物成分、量などの情報）を入力し、通信サーバ201の見積もりプログラムを使用して、製品コストを算出する。なお製品が医薬品のように、組成物成分として使用することのできる物質に法律上の規制等ある場合は、その規制の範囲内で組成や生産コストを決定することが必要である。

【0022】

（処理3）

決定された予想製品物性および生産コストに関する情報は、クライアント202から入力されて、通信サーバ201、101を介して製品製造者の製造担当者のクライアント102に送られる（図3の④）。

【0023】

（処理4）

製造担当者は送られた予想製品物性および販売コストを考慮して試作品製造依頼書を作成する。試作品製造依頼書（図3の⑤）はクライアント102から入力され、通信サーバ101、201を介して成分製造者の営業担当者のクライアント202に送られる。営業担当者は試作品製造依頼書を組成物製造者の担当者のクライアント302に通信サーバ201、301を介して転送する。

【0024】

この際に成分製造者は、組成物製造者に対して、製品組成及びその製造条件を開示する。たとえば、成分製造者は組成物製造者に対し、主成分X1およびその他の組成物成分X2についての情報を提供する。このように、成分製造者が組成物製造者に試作品製造を依頼する場合は、成分製造者は組成物製造者との間に製品組成、製造条件等について、事前に秘密保持契約を結んでおくことが望ましい。また、成分製造者が試作品の製造を自ら行える場合もあるが、その場合は、成分製造者に属する製造部門等が、図3における、組成物製造者相当の機能を果たすことになる。

【0025】

(処理5)

組成物製造者は製造の依頼を受けて試作品を製造し、それを成分製造者に納品する(図3の点線参照)。

【0026】

(処理6)

成分製造者は試作品の物性を測定する。場合によっては、組成物製造者で試作品の物性値を測定し、その情報も含めて試作品を納品してもよい。この場合の処理6は組成物製造者により実行される。

【0027】

(処理7)

成分製造者は、製品製造者に対し、試作品を提供する(図3の点線参照)、試作品の(測定)物性に関する情報(図3の⑥)は成分製造者の営業担当のクライアント202から製品製造者のクライアント102に送られる。このとき、組成及び製造方法に関する情報は開示しない点に留意されたい。試作品を解析すればその組成、製造条件等が容易に推定できるような場合は、製品製造者および成分製造者の間で製品組成を解析しない旨の契約等を結ぶ等の手立てを講じることが必要である。

【0028】

(処理8)

製品製造者は、提供された試作品の物性測定等を自ら行ったうえで、試作品の組成、製造条件に関する情報の開示を受ける(試作品の組成、製造条件に関する情報の開示を依頼する)かどうかを決定する。そしてその結果をクライアント102から成分製造者の営業担当のクライアント202に対し通知する(図3の⑦参照)。

【0029】

(処理9)

成分製造者は製品製造者の製造担当者から上記情報を開示してほしいとの通知を受けた場合、営業担当者がクライアント202から試作品の組成及び製造条件

の情報をクライアント102に対して送信することにより開示する。

【0030】

製品製造者が製品を製造することになった際は、成分製造者の販売する組成物成分X2の発注（製造依頼，図3の⑨）を製造担当者のクライアント102から成分製造者の営業担当のクライアント202に対して行う。成分製造者はその注文に応じて組成物成分X2を製造し、あるいは在庫品がある場合にはそれを販売する。製品製造者自らがその製品の製造を行わない場合はその製造を組成物製造者に委託しても良い。この委託をオンラインで行ってもよいことは勿論である。

【0031】

なお試作品提供及びその情報提供に関連する対価の支払い・受け取り等はそれぞれの形態に応じて随時発生する。例えば、試作品の製造を開始する前に、予想物性値や販売コストを製品製造者に対して示し、試作品作成のための対価の支払い・受け取りが発生する場合もある。また試作品提供後、物性情報・製造方法情報を購入する際には、それらに対する対価の支払い・受け取りが発生する。また製品製造者と成分製造者間では試作品製造のための対価のやりとりが当然発生する。

【0032】

これらの対価をオンラインで処理（いわゆる課金処理）してもよい。具体的には、製品製造者のシステムの通信サーバ101で、成分製造者のシステム200から必要な情報を受信するごとに予め設定されている金額を成分製造者の銀行口座に振り込む処理を行う。資金の決済は銀行振込、電子マネー等いずれの方法を使用してもよい。

【0033】

実施形態1における具体的な通信方法について簡単に説明しておく。

【0034】

製品製造者、成分製造者、組成物製造者の担当者間の情報の通信には、電子メール、ファイル転送（FTP）等種々の通信方法を使用することができる。

【0035】

また、上述の担当者は同一である必要はなく、営業、開発、製造等の好適部署

の人間が代行することができる。

【0036】

クライアント102、202の情報入力手段としてはキーボード、フロッピー（登録商標）ディスクその他の記憶装置、他の装置から通信により情報を入力する通信装置などを使用することができる。

【0037】

クライアント102、202の情報出力手段としては上述した実施形態のような表示装置以外にもプリンタ、フロッピー（登録商標）ディスク等の記憶装置、通信により情報を外部に出力する通信装置などを使用することができる。

【0038】

（実施形態2）

上述の実施形態1は、成分製造者が組成物製造者のシステムの蓄積情報を取得して、製品製造者に対して、製品製造者が望む情報を提供することに新規特徴がある。製品製造者側の労力は減少するものの、成分製造者側の情報の入力労力が若干増えてしまう。そこで、成分製造者側の人的処理を自動化するようにした第2実施形態を説明する。

【0039】

この形態では、成分製造者の通信サーバ201に製品製造者側で入力するための画面および成分製造者から受け取る情報を表示するための画面（情報出力画面）を表示するHTML文書が格納されている。製品製造者側のクライアント102はブラウザを利用して自己のクライアント102の表示画面にHTML文書（情報入力画面）を表示させる。この情報入力画面から図3の主成分およびその他の組成物成分の成分情報（①）、試作品製造依頼（⑤）、試作品製造条件等の開示の依頼（⑦）および製造依頼（⑨）を入力する。

【0040】

成分製造者の担当者はクライアント202のブラウザを使用して上記入力画面を表示させて、製品製造者側の入力情報を確認する。なお、主成分およびその他の組成物成分の成分情報を受け取った場合には、通信サーバ201により自動的に見積もりプログラムを起動し、販売コストの見積もりを行い、情報出力画面に

表示させるようにしてもよい。

【0041】

また、組成製造者のシステム300の蓄積情報から必要な情報を取り出す処理もデータベース検索用プログラムにより自動的に行うことができる。

【0042】

さらに組成製造者のシステム300から取得した情報と、自己のシステム200の蓄積情報とを組み合わせ、加工して、予想製品物性を専用のプログラムにより作成し、上記情報出力用画面で表示させるようにしてもよい。

【0043】

また、さらに組成物製造業者のシステム300に蓄積されている蓄積情報並びに成分製造者が独自に蓄積した組成物に関連する情報を成分製造者のシステム200内の蓄積手段、たとえば、ハードディスクに蓄積して、この蓄積手段から組成物に関連する情報を取り出して、使用してもよい（請求項5の発明に対応）。

【0044】

さらに成分製造業者のシステム200では上記実施形態では組成物成分の物性に関する情報を蓄積しているが、この蓄積情報を取り出すためのクエリーとして主成分情報またはその他の組成物成分情報あるいはその双方を使用してもよい。

【0045】

以上述べたプログラムは、当業者であれば、本明細書の説明で容易に作成することができるであろう。

【0046】

本願明細書で言う製品製造者、成分製造者、組成物製造者の概念の中には、代行業者、たとえば、商社なども含まれる。

【0047】

【発明の効果】

以上、説明したように、本発明によれば、組成物製品製造者が、新規な製品に関する製造上必要な情報を、関連する他の製造者と協同することにより効率よく取得することができるので、これによりこれら製造者間の取引の迅速化をはかることができる。

【図面の簡単な説明】**【図 1】**

従来の情報の流れを示す説明図である。

【図 2】

本発明実施形態のシステム構成を示すブロック図である。

【図 3】

本発明実施形態の情報の流れを示す説明図である。

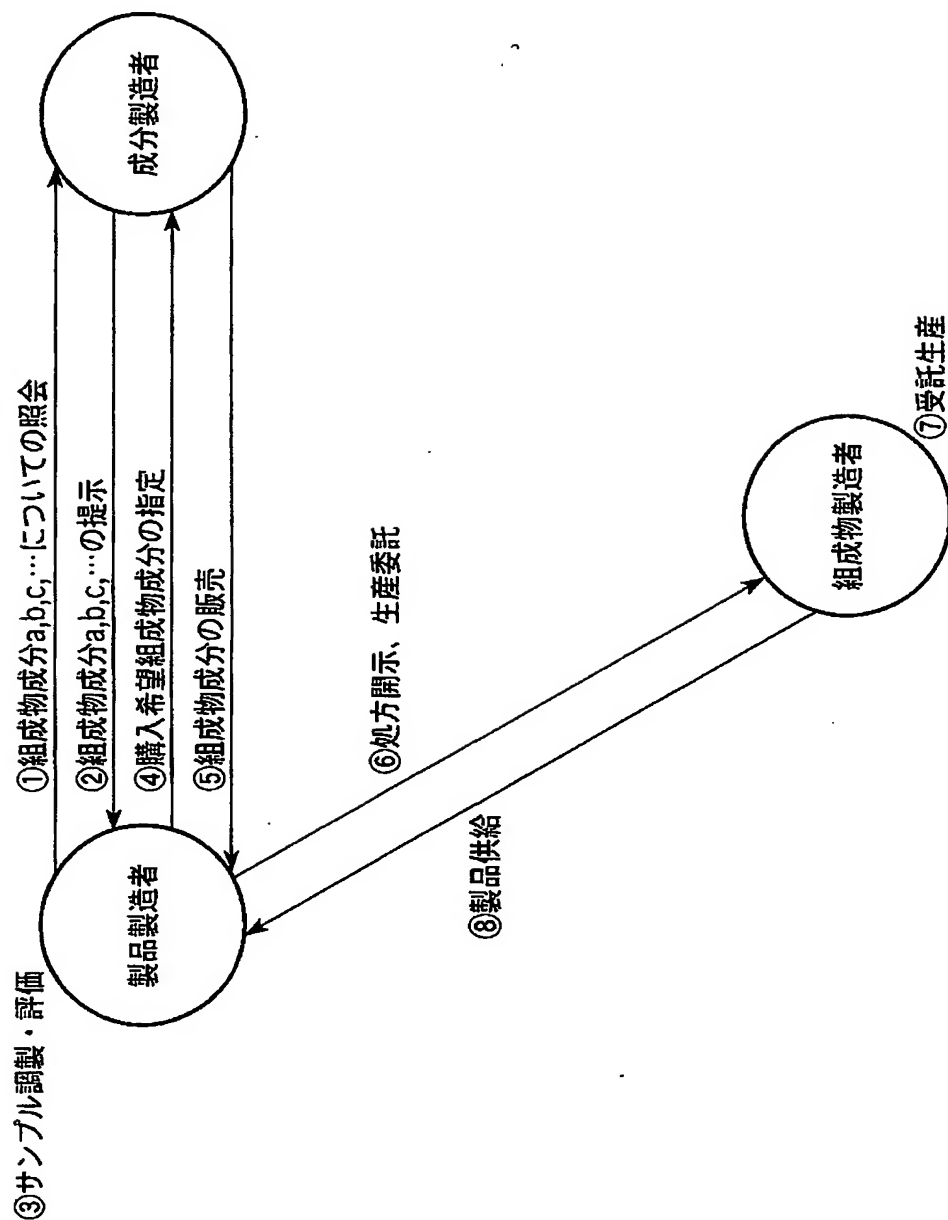
【符号の説明】

- 100 製品製造者のシステム
- 200 成分製造者のシステム
- 300 組成物製造者のシステム
- 400 通信ネットワーク

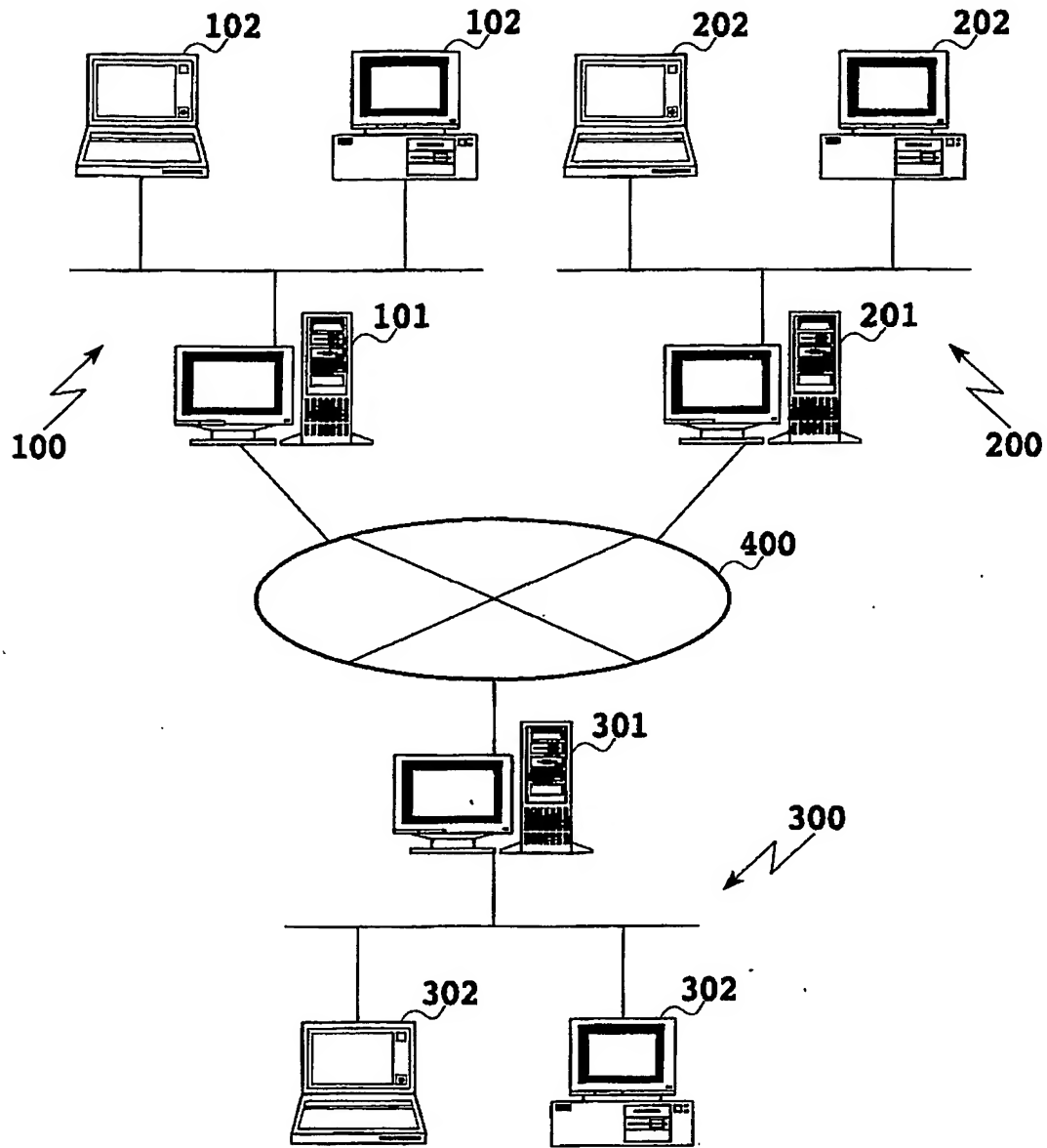
【書類名】

図面

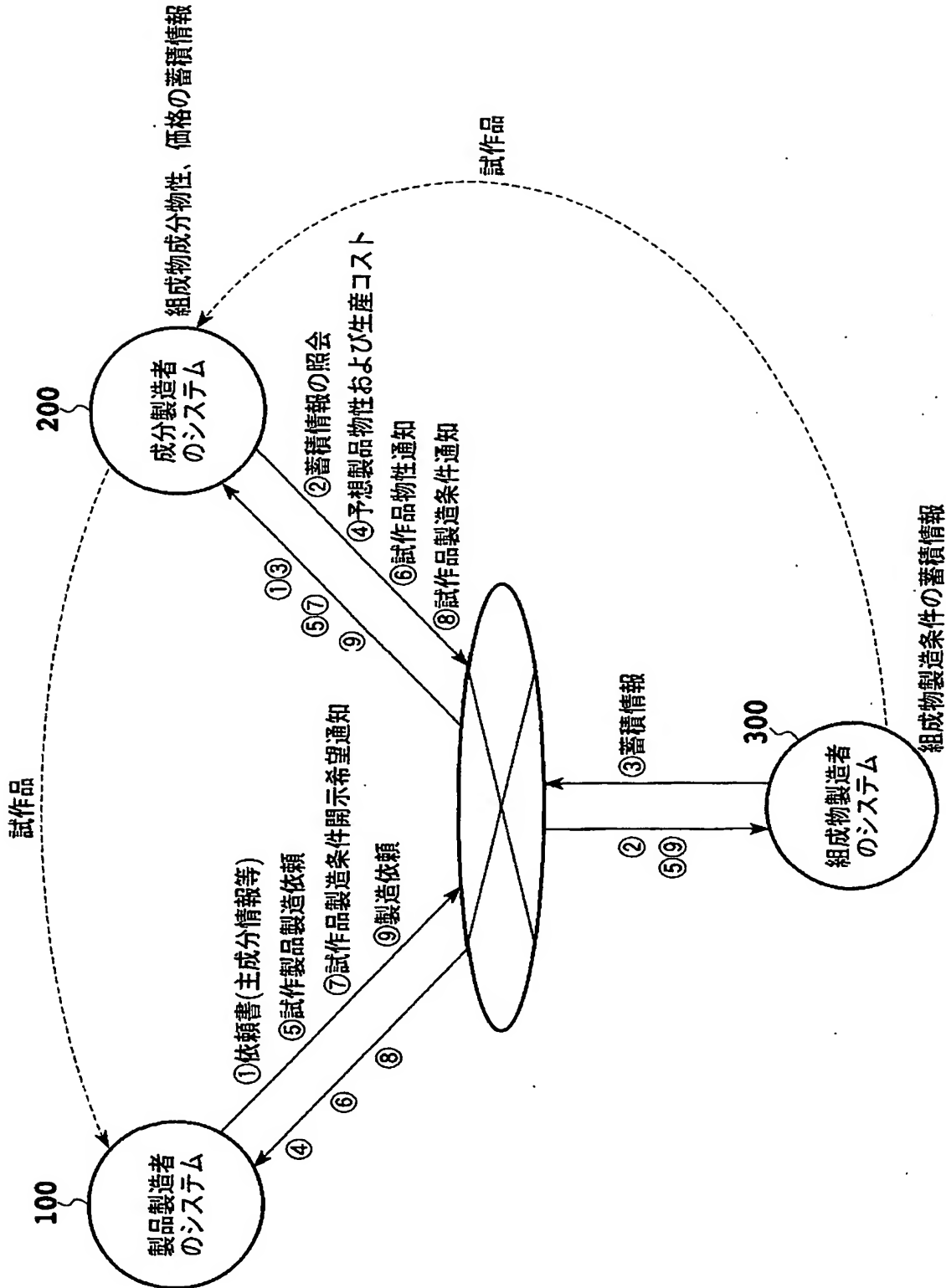
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 製品製造者の製品製造にかかわる労力を低減する。

【解決手段】 製品製造者のシステム100と成分製造者のシステム200および組成物製造者の間をオンラインで接続可能となし、成分製造者のシステムで組成物情報をシステム300から取得してシステム100に提供する。その際に、予測製品物性や生産コストなども提供される。

【選択図】 図2

特願 2002-172006

出願人履歴情報

識別番号

[000000033]

1. 変更年月日 2001年 1月 4日
[変更理由] 名称変更
住 所 大阪府大阪市北区堂島浜1丁目2番6号
氏 名 旭化成株式会社
2. 変更年月日 2003年 4月22日
[変更理由] 名称変更
住所変更
住 所 大阪府大阪市北区堂島浜1丁目2番6号
氏 名 旭化成株式会社